

U S オープンジュニア大会 報告書



期 日：平成24年8月26日（日）～9月8日（土）

場 所：ニューヨークナショナルトレーニングセンター

全米オープンジュニアテニス大会展望



全米オープンジュニアテニス大会選手団団長 全国高等学校体育連盟テニス部 部長 迫田 義次

全国高体連テニス部より全米オープンジュニアテニス大会に、初めて参加したのが平成13年でした。6000校11万人が在籍する高体連テニスプレーヤーに、世界を目指して欲しいという願いからでした。そして、高体連テニスの2大会である全国選抜高校テニス大会及び全国高校総体を通して、多くの高校生プレーヤーが全米オープンテニスジュニア大会を目指してくれるようになりました。今年は、後藤翔太郎（四日市工業高校）と林恵里奈（仁愛女子高校）が代表として参加しました。結果は、岸先生が報告している通り、両選手とも大健闘してくれました。特に、後藤君は予選を突破し、本戦でも2回戦まで進出して大接戦を展開してくれました。

現地では、多くの日本選手が世界にチャレンジしている姿がありました。本戦で活躍していた西岡・内田君はアメリカを本拠地として活動したり、ナショナルチームのメンバーとして海外の大会に参加している選手でもあります。様々な支援のもとに世界を目指している選手達です。当日は、日本テニス協会の畔柳会長やナショナルチームのスタッフも熱い眼差しで応援していました。

この様な中であって、高体連テニス部においては、経済的な側面や家庭事情・学校事情など、様々な理由により必ずしも常時海外ツアー参加が果たせていない部活動選手に、少しでもチャンスを与えたいという願いを込めて精一杯の環境作りに努めてきました。その一つが全米オープンテニスジュニア大会や日中韓ジュニア交流競技会などです。いずれの道にしても可能性のある若者が夢を持てるテニス界は、私たちテニスに関わる立場としても誰もが願っていることだと思います。

改めて今年感じることは、早くから海外を拠点に頑張っていく選手達と学校教育の部活動を通してチャレンジする選手達のいずれにも価値があり存在する意義があるということでした。これらの選手達の姿を目にして、日本テニス界がそれぞれの道で、さらに活性化することを願いたいと思います。

そして、今年の後藤君と林さんの戦いぶりが、私たち高体連テニスに勇気と可能性を示してくれたと思います。

子供達に夢を。頑張りましょう。

大会総括



監督 全国高体連テニス部副部長 岸 徹

3月の全国選抜高校テニス大会の個人戦で優勝した、男子後藤翔太郎（四日市工業高校）と女子林恵里奈（仁愛女子高校）が日本の高校生代表として US オープンジュニア大会に参加した。この2人は、8月に行われた新潟インターハイにおいても個人戦優勝し、心身ともに充実したコンディションの中で大会を迎えた。特に後藤選手は、昨年に続き2回目ということもあり、昨年の予選で負けた悔しさから今年はリベンジしたいという気持ちが、強化合宿時からプレーに出ていたように見えた。

26・27日と NTC の右近氏・田島氏のご協力により大学トップの選手と練習しいい調整ができ、ニューヨークに入ることができ、ニューヨークでもウイルソンの福永さんに尽力いただき、練習場所や練習相手の調整もうまくいきかなり良いコンディションで大会に臨むことができた。

そして、予選が始まりまず先陣を切って後藤選手が、アメリカの選手と対戦。1セット目から後藤選手は、トップギアで相手を圧倒し6－2で取った。完璧に近い素晴らしいスタートだった。2セット目は、相手もリズムをつかみ競ったゲームが続くが、終始攻めのテニスを続けた後藤選手が6－4で競り勝ち1回戦を突破した。

続いて林選手の1回戦。後藤選手の勝ち試合を見て刺激になったのか、終始冷静にプレーをし、6－2・7－5で見事に勝利した。

この後、後藤選手は2回戦もスタートから相手を圧倒6－0・6－3で勝利。林選手は、惜しくも4－6・4－6で敗れた。相手選手は、ハンガリーの選手で長身からの強いサーブと林選手の肩以上に跳ねて伸びる強いストロークがあり、世界レベルの高さを痛感する試合であった。林選手は、残念ながら予選通過を逃したが、終始落ち着いて自分のテニスを貫き最後まで攻め続けたプレーは素晴らしかった。

本戦入りした後藤選手は、本戦1回戦でも出だしから攻めのテニスで相手を圧倒しストレートで勝利した。2回戦の相手にも一歩も引かず持ち前のストローク力で戦ったが、6－7・4－6で負けてしまった。やはりこのクラスになるとワンチャンスものにするかできないかが、勝敗を分けたように思う。

最後に、強化合宿から大会最後までご面倒いただいたウイルソン福永氏並びにスタッフの方々、応援いただいた畔柳日本テニス協会会長。団長として我々を引っ張っていただいた迫田部長。そして2人の選手に感謝し総括といたします。

日 程

平成24年8月26～27日 NTCにて強化合宿

29～30日 現地にて練習

31～6日 US オープンジュニア

8日 帰国

選手団

団 長 迫田 義次（全国高体連テニス部部長）

監 督 岸 徹（全国高体連テニス部副部長）

選 手 後藤翔太郎（三重県立四日市工業高等学校）

林 恵里奈（福井県仁愛女子高等学校）

コーチ 福永 二郎（アメアスポーツ）



大会成績

男子シングルス

予選 1 回戦

後藤 翔太郎 (日本) 6 - 2 6 - 4 Jordan Tucker Daique (USA)

2 回戦

後藤 翔太郎 (日本) 6 - 0 6 - 3 Franz Sydow (NED)

本戦 1 回戦

後藤 翔太郎 (日本) 6 - 1 7 - 6 (6) Jeroen Vanneste (BEL)

2 回戦

後藤 翔太郎 (日本) 6 (5) - 7 4 - 6 Kyle Edmund (GBR)

男子ダブルス

1 回戦

後藤 翔太郎 (日本) Anton Desyatnik (RUS)
Sumit Nagal (IND) 4 - 6 3 - 6 Karen Kalovelonis (RUS)

女子シングルス

予選 1 回戦

林 恵里奈 (日本) 6 - 2 7 - 5 Keisey Laurente (USA)

2 回戦

林 恵里奈 (日本) 4 - 6 4 - 6 Szabina Sziavikovics (HUN)



選手の感想



四日市工業高校 後藤翔太郎

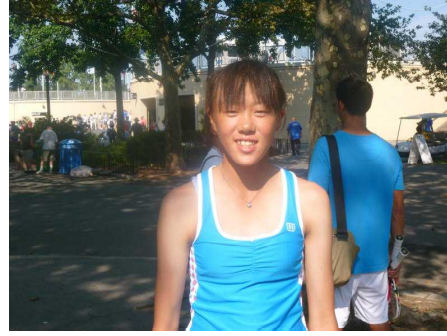
今回 US オープンジュニアに参加させていただきました。とても充実した日々を過ごせました。それも一緒に行動していただいた高体連の先生をはじめ、ウイルソンの方々のサポートがあっただと思います。

結果は、予選を2回勝ち本戦に上がり、1回戦を勝ち2回戦で負けてしまいました。去年は、予選で負けていたので今年は最低でも予選を上がることを考えていたので、まずは予選を上がれて良かったです。しかし、本戦2回戦の負けた試合の1セット目も2セット目もチャンスがあっただけに本当に悔しかったです、この世界のレベルでも戦えると思いました。

こういった素晴らしい経験をしたことをこれからに生かして頑張っていきます。

本当に素晴らしい経験をありがとうございました。





仁愛女子高校 林 恵里奈

まずはじめに US オープンジュニアに参加させていただきありがとうございました。なかなか出場できない大会に参加できて、とても良い経験になりました。このような経験を与えて下さった全国高体連テニス部の皆様、大会前からいろいろなサポートをして下さったウイルソンのスタッフの皆様、ありがとうございました。

今大会で感じたことは、日本人と比べて海外の選手はボールの質が違うなと感じました。ラリーのなかでのボールの使い方がとても上手でした。特に2回戦の相手は身長が高く、サーブのスピード・角度がすごかったです。ストロークでも打ちにくいところに打たされてなかなかコントロールすることができませんでした。自分の打点で打てなくて、自分のプレーが出来ませんでした。

本戦の選手を見て感じたことは、第1シードも第2シードも年齢が16歳くらいの人でした。第1シードの人は左利きでサーブ&ボレーが多くて、非常に積極的なプレーをしていました。第2シードの人は小柄だけど体全部を使って打っていて動きも速かったです。本戦の選手の人は、試合前のウォーミングアップや試合後のクールダウンなどしっかりしていました。試合が終わってからトレーニングをしていたので、意識のレベルが高いなと思いました。私も筋力トレーニングをしていたら、本戦に上がることが出来たと思います。

これからの課題として、どんなに振られたボールでもしっかりボールのところまで行って自分のボールにして打つことと、上半身・下半身の筋力トレーニングをすることが課題です。

今回このような経験が出来たのは、たくさんの方々の応援や支えがあったからです。感謝の気持ちを忘れずこれから今回の経験を活かせるように頑張ります。ありがとうございました。







